



言語科学国際共同研究のカリキュラム化 (コンソーシアム協定に基づく若手研究者の育成)

南山大学 人間の尊厳のために

人間文化研究科：人間性の本質の追究と国際的に活躍しうる人材の育成

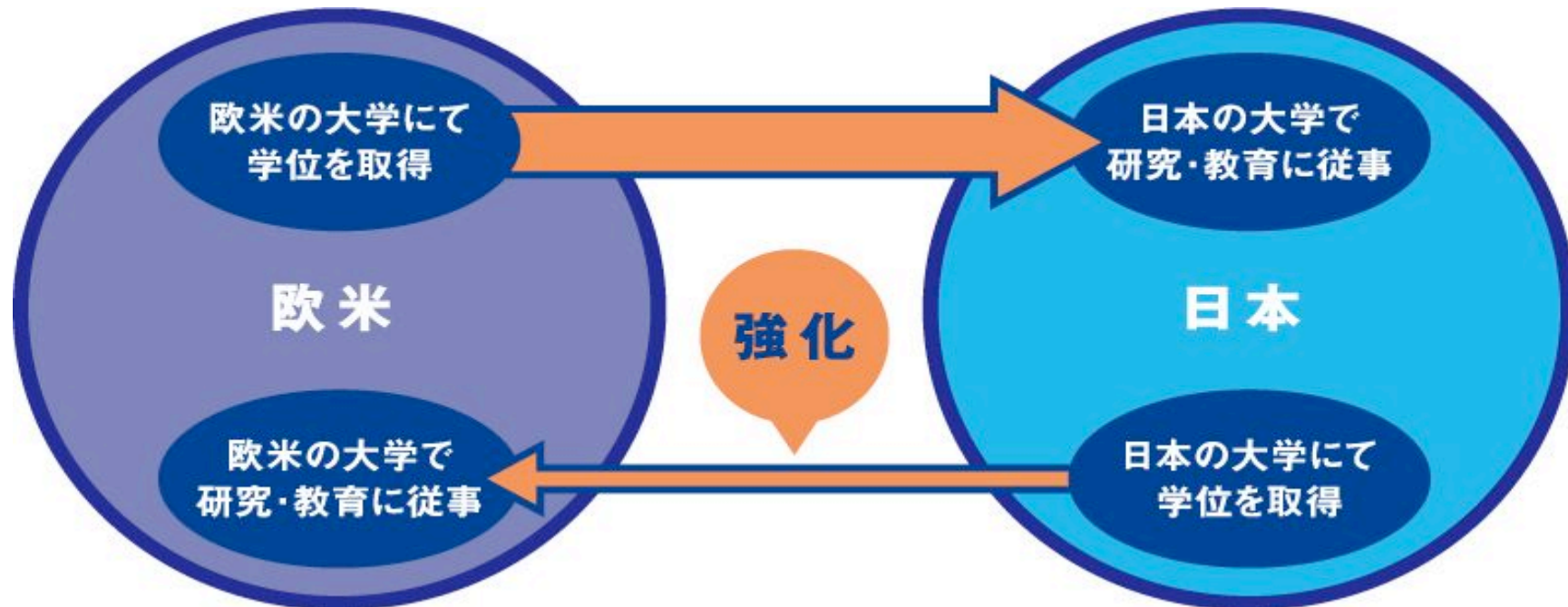
言語学における研究者養成

- 諸言語の比較に基づく人間言語の普遍性の解明
- 研究者間の国際的ネットワークと恒常的な協力体制



日本語研究・日本語習得研究からの貢献

- 日本語の「特殊性」による多大な貢献の可能性
- 「一方通行」の改善の必要性



北米・ヨーロッパにおける大学の国際化(教員の出身国)

マサチューセッツ工科大学 (言語学プログラム)		コネチカット大学 (言語学科)	
アメリカ	9名	アメリカ	3名
ドイツ	2名	カナダ	1名
ルーマニア	1名	ドイツ	1名
イスラエル	1名	オランダ	1名
ギリシャ	1名	イタリア	1名
ハイチ	1名	イスラエル	1名
日本	1名	セルビア・モンテネグロ	1名

コンソーシアムに基づく国際共同研究のカリキュラム化



南山大学における開講科目

第1回	平成18年(2006年)9月11-14日	第5回	平成19年(2007年)9月(予定)
	テーマ『演算子の移動と解釈』 【国立清華大学】		テーマ『第二言語習得研究と日本語教育者の養成』 【同徳女子大学校】
第2回	平成19年(2007年)2月1-3日	第6回	平成19年(2007年)9月(予定)
	テーマ『大学接触場面の教材化』 【ベルリン自由大学】		テーマ『項構造と機能範疇』 【ケンブリッジ大学・ハイデラバード国立言語研究所】
第3回	平成19年(2007年)2月16-20日	第7回	平成20年(2008年)2月(予定)
	テーマ『言語習得研究と普遍文法』 【シエナ大学・コネチカット大学】		テーマ『接触場面研究』 【ニューサウスウェールズ大学】
第4回	平成19年(2007年)6月(予定)	第8回	平成20年(2008年)2月(予定)
	テーマ『極小理論の諸問題』 【コネチカット大学】		テーマ『動詞句の構造と機能範疇』(予定) 【シエナ大学】

※大学名は共同開催校

2005年度入学生のモデル・カリキュラム

博士前期課程		博士後期課程	
2005年度春	研究科共通科目 (2)	2007年度春	言語科学特殊研究 (言語理論) A (2)
	音韻論概論 (2)		言語科学特殊研究 (言語理論) B コンソーシアム科目 (2)
2005年度秋	統語論概論 (2)	2007年度秋	研究指導I (2)
	意味論概論 (2)		言語科学特殊研究 (言語表現論) B (2)
2006年度春	研究指導I (2)	2008年度春	言語理論研究A コンソーシアム科目 (2)
	言語運用能力論—英語 (2)		研究指導II (2)
2006年度秋	意味論研究 (2)	2008年度秋	異文化コミュニケーション論 (2)
	心理言語学概論 (2)		協定校におけるコンソーシアム科目 (2)
2006年度春	研究指導II (2)	2009年度春	研究指導III (2)
	研究科共通科目 (2)		日本語教育研究I (2)
2006年度秋	日本語教育概論 (4)	2009年度秋	(研究論文)
	研究指導III (2)		言語理論研究B コンソーシアム科目 (2)
2006年度春	研究指導IV (2)	2009年度秋	研究指導IV (2)
	統語論研究 コンソーシアム科目 (2)		協定校におけるコンソーシアム科目 (2)
2006年度秋	研究指導V (2)	2009年度秋	研究指導V (2)
	(修士論文)		研究指導VI (2)
	研究指導IV (2)		(博士論文)

期待される成果—教育効果

- 国際的な研究環境の創出
- 国際共同研究のインターンシップ的訓練
- 国際教育に基づく人間言語の普遍性に関する独創的な研究
- バランスのとれたテーマ設定
- それぞれの言語の研究において指導的な役割を果たしている教員による指導
- 将来が嘱望される海外の若手研究者との共同研究

期待される成果 — 国際共同研究のさらなる推進

- 短期交換留学による国際共同研究のさらなる推進
- 学生の研究指導に関するコンソーシアム協定校の協力体制
- 各学生の国際ネットワークの形成



本プロジェクトにおける取組(実績1)

- <南山大学・国立清華大学(台湾)コンソーシアム>
2006.9.11-9.14に実施



本プロジェクトにおける取組(実績2)

- 〈国立清華大学・南山大学共同ワークショップ〉
2006.9.14-9.15に実施



本プロジェクトにおける取組(実績3)

- <日本語教育領域 共同ワークショップ(南山大学／韓国・同徳女子大学／オーストラリア・ニューサウスウェールズ大学)>
2006.10.14-10.15に実施



本プロジェクトにおける取組(実績4)

- <ハイデラバード国立言語研究所・南山共同ワークショップ>
2006.10.21-10.22に実施



平成20年度以降のコンソーシアム科目の開講

- 南山大学を本部として、協力体制を継続することについてすでに合意
- 平成20年度以降は、コンソーシアム科目を協定校が「回り持ち」で開講する。
- 南山大学は、言語科学専攻と言語学研究センターが協力して、年に2科目程度を継続して開講していく。

大学院教育の国際化に向けて

- 事業の詳細と研究成果を、ホームページ、シンポジウム、刊行物を通して発信
- 本学における大学院教育の国際化の推進



NANZAN
UNIVERSITY

